

Web対応エネルギー監視モジュール 取扱説明書 (TELNET編)

WTM-PE6L□-□□A□00

製品改良の為予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

watanabe
渡辺電機工業株式会社

目次

1 工場出荷時設定	3
2 TELNET接続の前に	3
2-1 TELNETの文字コードの設定	4
2-2 コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定	4
3 TELNET接続	5
4 各種設定と参照	7
4-1 モジュールリセット	7
4-2 内部イベントログ参照	8
4-3 警報イベントログ参照	12
4-4 全イベントログ参照	14
4-5 全イベントログクリア	14
4-6 LAN送信/受信/エラー情報の参照	15
4-7 LAN送信/受信/エラー情報のクリア	16
4-8 内部時計の参照および設定	16
4-9 通信速度・通信方式の参照および設定	16
4-10 通信SUM値の有無の参照および設定	17
4-11 通信エラーステータス応答の有無の参照および設定	17
4-12 モジュールを工場出荷時の状態に戻す	17

Microsoft Windows XP は、米国マイクロソフト社の登録商標です。
本文中の登録商標には、TM や®は表示していません。

この度はWeb対応エネルギー監視モジュールをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本取扱説明書ではTELNETによる本器の設定方法や設定値の参照方法について説明しております。
本取扱説明書の内容に関しては製品改良の為、予告なしに変更する事がありますのでご了承ください。

- ご使用前に本取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管し、必要なときにお読みください。

1 工場出荷時設定

本器の工場出荷時の設定は下記の通りとなります。

IPアドレス	:192.168. 1. 10
サブネットマスク	:255.255.255. 0
デフォルトゲートウェイ	: 0. 0. 0. 0
LAN通信速度・LAN通信方式	:自動(オートネゴシエーション)
通信SUM値設定	:無し
通信エラーステータス応答設定	:無し

2 TELNET接続の前に

TELNET接続を行う前に、TELNETの文字コードの設定とコマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定を行います。

注意

Windows7またはWindows8をご利用の場合、初期状態ではTELNETが無効となっております。
TELNET接続の前にあらかじめ「Windowsの機能の有効化または無効化」からTelnetクライアントの機能を有効に設定してください。

設定の例としてWindows XPでの操作方法を説明します。

コマンド入力は半角／全角または、大文字／小文字の区別がありますので、半角英数字で記載の通り入力して下さい。

※以下、スペースと改行入力は下記のように表記します。

スペース： □

改行入力： 

2-1 TELNETの文字コードの設定

本器の各種設定をWindows付属のTELNETから行う際に、TELNETの文字コードをシフトJISに設定する必要があります。(設定を行わないと日本語文字が正しく表示されません)

TELNETの文字コードをシフトJISに設定します。

- ① Windowsの『スタート』より『すべてのプログラム(P)』を選択します。
- ② 『アクセサリ』にある『コマンド プロンプト』をクリックします。
- ③ コマンドプロンプト画面が表示されましたら、『telnet』と入力してTELNETを起動します。

```
C:\> telnet
```

- ④ TELNET起動後、『set codeset shift jis』と入力して文字コードをシフトJISに設定します。

```
Microsoft Telnet> set codeset shift jis
```

- ⑤ 『display』を入力して設定内容の確認をします。

```
Microsoft Telnet> display
```

- ⑥ 『quit』を入力してTELNETを終了します。

```
Microsoft Telnet> quit
```

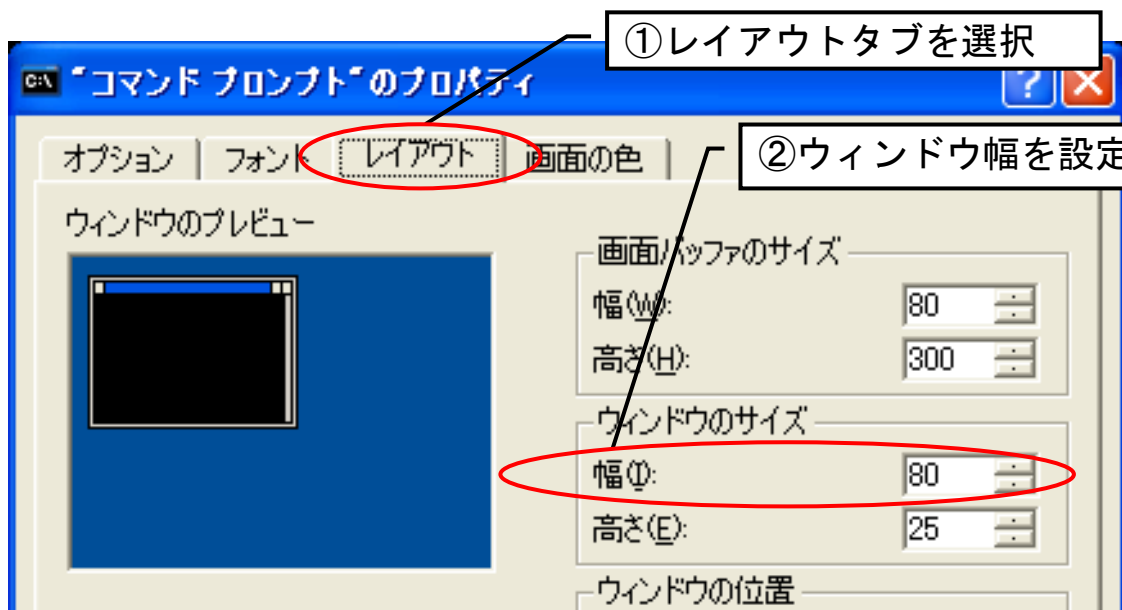
以上でTELNETの文字コードの設定は完了となります。
一度設定すれば、次のTELNETの起動からは上記の設定が適用されます。

2-2 コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定

コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定によっては、TELNETの画面で文字が途中で折り返されて表示される場合があります。その場合、適切なウィンドウ幅に設定してTELNET接続してください。

コマンドプロンプトのウィンドウ幅を設定します。

- ① コマンドプロンプトのタイトルバーを右クリックし、プロパティを選択します。
- ② レイアウトタブを選択します。
- ③ 「ウィンドウのサイズ」の幅の値を設定してください。



画面1. コマンドプロンプトのプロパティ

3 TELNET接続

TELNET接続の例としてWindows XPでの操作方法を説明します。

コマンド入力は半角／全角または、大文字／小文字の区別がありますので、半角英数字で記載の通り入力して下さい。

- ① Windowsの『スタート』より『すべてのプログラム(P)』を選択します。
- ② 『アクセサリ』にある『コマンド プロンプト』をクリックします。
- ③ DOS画面が表示されましたら、『telnet □ IPアドレス』と入力してTELNETを起動します。

例:モジュールのIPアドレスが『192.168.1.10』の場合

```
C:\¥>telnet □ 192.168.1.10 ↵
```

- ④ ログインユーザー名『watanabe』を入力します。

※ログインユーザー名は変更できません。

```
>login:watanabe ↵
```

- ⑤ パスワード『rial』を入力します。

※パスワードは変更できません。

※入力したパスワードは、実際の画面上では*で表示されます。

```
>password:rial ↵
```

※ログインユーザー名、またはパスワードが間違っていた場合は、下記の通り表示されます。

```
login incorrect ↵  
>login:
```

ログインに3回失敗すると切断されます。再度TELNETに接続する場合は③から操作を行って下さい。

- ⑥ Telnetに接続すると下記メニューを表示します。

```
telnet VerX.XX 2010/01/01 00:00:00
(rst)本体リセット
(evd)内部イベント
(lst)LAN情報
(rtc)時計参照/設定
*(lan)LAN通信速度、通信方式
(sum)SUM値参照/設定
(err)エラーステータス応答参照/設定
*(ini)工場出荷時設定
```

*()マークのコマンドは、本体リセット後、または本体の電源ON時に適用され動作を開始します。

メニュー上部の内容は下記の通りとなります。

VerX.XX	:ソフトウェアバージョン
2010/01/01 00:00:00	:TELNETメニュー表示時刻

※TELNET接続中に『?』を入力すると上記メニューを表示します。

```
>? 
```

コマンドが間違っていた場合は下記の通り表示されます。

```
>Error!
```

- ⑦ 『bye』または『logout』と入力するとTelnetを切断します。

```
>bye  TELNETを切断します。
ホストとの接続が切断されました。

>logout  TELNETを切断します。
ホストとの接続が切断されました。
```

※ Telnetに接続後、3分間何も入力しない状態が続くと、自動的にTELNETを切断します。

4 各種設定と参照

TELNETでの各種設定方法と設定値の参照方法を説明します。
本器はTELNETから下記の参照および設定を行う事ができます。

- ・モジュールリセット
- ・内部イベントログの参照およびクリア
- ・警報イベントログの参照およびクリア
- ・LAN送信/受信/エラー情報の参照およびクリア
- ・モジュールの内部時計の参照および設定
- ・通信速度と通信方式の参照および設定
- ・通信SUM値の有無の参照および設定
- ・通信エラーステータス応答の有無の参照および設定
- ・モジュールを工場出荷時の状態に戻す

⚠ 注意

IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、TELNETから設定はできません。
IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定は、本器に搭載されているWeb機能から行います。Web機能につきましては、下記の取扱説明書をご参照ください。

- ・Web対応エネルギー監視モジュール取扱説明書(仕様編)
- ・Web対応エネルギー監視モジュール取扱説明書(設置・設定編)

4-1 モジュールリセット

モジュールにリセットを指示します。

リセット後、TELNETは切断され、モジュールが再起動します。

```
>rst ☐
```

```
リセット?(y/n):y ☐
```

```
リセットOK
```

```
>
```

```
リセット?(y/n):n ☐
```

```
リセットcancel
```

```
>
```

『rst』を入力します。

y ☐を入力するとリセットします。

n ☐を入力するとリセットしません。

4-2 内部イベントログ参照

本器で発生した内部イベントログを、発生時刻の新しいものから順に参照します。
発生した全ての内部イベントログを参照する方法と、イベントログNoを指定して参照する方法があります。
イベントログ内容については、表1をご参照ください。

参照できるイベントログの最大件数は、内部イベントログと警報イベントログで合計300件までです。
イベントログの件数が300件を超えた場合、最も古いものから上書きされます。

(例)発生した全ての内部イベントログを参照する場合

>evd □ M □ 0

>『evd □ M □ 0』を入力します。

>内部イベントログ1件目が表示されます。

001:2010/01/05 05:05:50 08 Ready

イベントログ内容 (表1をご参照ください)
発生時刻 (西暦/月/日 時:分:秒)
イベントログNo (001~300)

002:2010/01/04 04:04:40 08 Power OFF

>内部イベントログ2件目が表示されます。

003:2010/01/03 03:03:30 12 LAN Link(Up 100/D)

>内部イベントログ3件目が表示されます。

004:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link(Down)

>内部イベントログ4件目が表示されます。

⋮
⋮

300:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link(Up 100/D)

>最後の内部イベントログが表示されます。

>

(例)イベントログNoを指定して参照する場合

>evd □ M □ 10

>『evd □ M □ イベントログNo』を入力します。

010:2010/01/03 03:03:30 08 IP Address Initial

>指定したイベントログNoの内部イベント
ログが表示されます。

011:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link(Up 100/D)

>指定したイベントログNo以降の内部
イベントログが表示されます。

⋮
⋮

300:2010/01/01 01:01:10 08 Reset Start (Power)

>最後の内部イベントログが表示されます。

>

(例)表示するイベントログが20件より多い場合

>evd □ M □ 0

>内部イベントログを参照します。

⋮
⋮

020:2010/01/03 03:03:30 12 LAN Link(Up 100/D)

>内部イベントログ20件目が表示されます。

continue?:

>20件ごとに表示を一時中断します。

残りのイベントログの表示を続ける場合は
を入力してください。

イベントログの表示を中止する場合は
以外のキーを入力してください。

表1. 内部イベントログの内容

イベントログ	内容
08 PowerOFF	通常動作中に本器の電源がOFFになりました。
08 Ready	電源が投入されて通常動作を開始しました。
12 LAN Link (Down)	LAN通信が切断されました。
12 LAN Link (Up xxx/y)	LAN通信が接続されました。 ()内には通信速度と通信方式が表示されます。 (Up 100/D) : 100Mbps/全二重 (Up 100/H) : 100Mbps/半二重 (Up 10/D) : 10Mbps/全二重 (Up 10/H) : 10Mbps/半二重
02 蓄積(xxx)	本器の遠隔監視機能により、蓄積データの収集に成功しました。 遠隔監視機能につきましては、Web対応エネルギー監視モジュール取扱説明書(仕様編)をご参照ください。 ()内には蓄積データの収集の詳細が表示されます。 (収集要求送信, 収集終了) : 時刻指定での蓄積データ収集に成功 (収集要求再送信, 収集終了) : 時刻指定の再送信での蓄積データ収集に成功 (日付指定収集要求送信, 収集終了) : 日付指定での蓄積データ収集に成功 (蓄積同期収集要求送信, 収集終了) : 蓄積同期での蓄積データ収集に成功
06 LAN通信エラー(xxx)	本器の遠隔監視機能の動作中に、LAN通信エラーが発生して蓄積データの収集に失敗しました。 遠隔監視機能につきましては、Web対応エネルギー監視モジュール取扱説明書(仕様編)をご参照ください。 ()内には失敗した蓄積データの収集の詳細が表示されます。 (収集要求送信, 収集エラー(yyy)) : 時刻指定での蓄積データ収集に失敗※ (日付指定収集要求送信, 収集エラー(yyy)) : 日付指定での蓄積データ収集に失敗※ (蓄積同期収集要求送信, 収集エラー(yyy)) : 蓄積同期での蓄積データ収集に失敗※ ※()内には失敗したLAN通信処理の詳細が表示されます。 下記のいずれかの処理が表示されます。 ・収集要求 ・チャンネル数確認 ・蓄積収集 ・イベントログ収集 ・時計校正設定 ・収集要求送信時間設定 ・日付指定収集要求時間設定

イベントログ	内容
09 RTC Set (From xxxx/yy/zz XX:YY:ZZ)	モジュールの内部時計が設定されました。 ()内には設定前の時刻が表示されます (例) (From 2010/01/01 01:02:03) : 設定前の内部時計は2010年01月01日 01時02分03秒
08 LAN SW(xxx)	通常動作中に本器のLAN有効スイッチによりLAN有効/無効の切り替えが行われました。 ()内にはLANの有効/無効の切り替えが表示されます。 (ON) : LAN有効に切り替え (OFF) : LAN無効に切り替え
08 IP Address Initial	IPアドレスのみ工場出荷時設定に戻す操作が行われました。 操作方法については、WTM取扱説明書(仕様編)をご参照ください。
08 Telnet ini Initial	TELNETによって工場出荷時の状態に戻す指示が行われました。 工場出荷時の状態に戻す指示については、 4-12. モジュールを工場出荷時の状態に戻す をご参照ください。
08 SET SW Initial	セツトスイッチによって工場出荷時設定に戻す操作が行われました。 操作方法については、WTM取扱説明書(仕様編)をご参照ください。
08 Reset Start (Telnet)	TELNETによって本器のリセットが指示されました。 リセットの指示については、 4-1. モジュールリセット をご参照ください。
08 Reset Start (Power)	瞬停によるリセットが発生しました。
08 Reset Start (Error)	重故障によるリセットが発生しました。
08 Watch Dog Reset Start	本器にウォッチドッグリセットが発生しました。
08 SOFT VerUP(OK)	本器のソフトウェアのバージョンアップが行われ、バージョンアップが成功しました。

イベントログ	内容
11 AD Time Out Error(x)	アナログ信号入力または測温抵抗体入力のデータ変換でタイムアウトが発生しました。 ()内にはアナログ信号入力と測温抵抗体入力の種別が表示されます。 (AI) : アナログ信号入力 (RI) : 測温抵抗体入力
11 AD Data Error(x:yyyyyy)	アナログ信号入力または測温抵抗体入力のデータにエラーが発生しました。 ()内にはアナログ信号入力と測温抵抗体入力の種別が表示されます。 (AI) : アナログ信号入力 (RI) : 測温抵抗体入力
11 Program SUM Check Error	本器のプログラムにSUM値エラーが発生しました。
11 RAM Check Error	本器のメモリチェック時にエラーが発生しました。
11 FRAM SUM Check Error	本器の不揮発メモリのSUM値エラーが発生しました。
11 FRAM Check Error	本器の不揮発メモリチェック時にエラーが発生しました。
11 FRAM Write Error(xxxx)	本器の不揮発メモリの書き込み時にエラーが発生しました。 ()内には不揮発メモリのアドレス(0x0000~0xFFFF)が表示されます。 (0000) : アドレス0x0000でエラーが発生
11 FRAM Read Error(xxxx)	本器の不揮発メモリの読み込み時にエラーが発生しました。 ()内には不揮発メモリのアドレス(0x0000~0xFFFF)が表示されます。 (0000) : アドレス0x0000でエラーが発生
11 RTC Error(xxx)	モジュールの内部時計にエラーが発生しました。 ()内にはエラーの内容が表示されます。 (COM) : 内部時計との通信エラーが発生 (BAT) : 内部時計のバッテリーバックアップの電圧が低下
06 LAN Error(DMA)	LANエラーが発生しました。
11 TMS Error(xxx)	本器の電力演算用CPUのエラーが発生しました。 ()内にはエラーの内容が表示されます。 (SUM) : 通信SUM値エラーが発生 (PRG) : 電力演算用CPUプログラムのSUM値エラーが発生 (WDT) : 電力演算用CPUにウォッチドッグリセットが発生 (NUL) : 電力演算用CPUが無応答 (CMD) : 電力演算用CPUのコマンドエラーが発生 (LEN) : 電力演算用CPUのデータ長エラーが発生
11 File System Error(xxx)	本器のファイルシステムにエラーが発生しました。 ()内にはエラーの内容が表示されます。 (Init) : ファイルシステムの初期化時にエラーが発生 (Write) : ファイル書き込み時にエラーが発生 (Read) : ファイル読み込み時にエラーが発生 (Cmp) : ファイルチェック時にエラーが発生 (Open) : ファイルオープン時にエラーが発生 (Close) : ファイルクローズ時にエラーが発生

表2. 警報イベントログの内容

イベントログ	内容
01 警報, 発生 (警報LL発生 (No. x), 警報ポイント名)	警報LLが発生しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 発生 (警報LO発生 (No. x), 警報ポイント名)	警報LOが発生しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 発生 (警報HI発生 (No. x), 警報ポイント名)	警報HIが発生しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 発生 (警報HH発生 (No. x), 警報ポイント名)	警報HHが発生しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 発生 (警報発生 (No. x), 警報ポイント名)	デジタル入力での警報が発生しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 復帰 (警報LL復帰 (No. x), 警報ポイント名)	警報LLから復帰しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 復帰 (警報LO復帰 (No. x), 警報ポイント名)	警報LOから復帰しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 復帰 (警報HI復帰 (No. x), 警報ポイント名)	警報HIから復帰しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 復帰 (警報HH復帰 (No. x), 警報ポイント名)	警報HHから復帰しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 警報, 復帰 (警報復帰 (No. x), 警報ポイント名)	デジタル入力での警報が復帰しました。 (No. x)は警報監視Noを表します。 警報ポイント名は蓄積設定ツールで設定した名称を表示します。
01 メール異常 (メール設定x), <u>”警報イベントログの内容”</u>	警報発報のメール通知に失敗しました。 メール設定xはメール設定番号を表します。 <u>警報イベントログの内容</u> には通知に失敗したときの警報イベントログを表示します。
01 メール異常 (メール設定x, LAN無効), <u>”警報イベントログの内容”</u>	警報発報のメール通知時にLAN有効スイッチが無効であったため通知に失敗しました。 メール設定xはメール設定番号を表します。 <u>警報イベントログの内容</u> には通知に失敗したときの警報イベントログを表示します。

4-4 全イベントログ参照

本器で発生した内部イベントログと警報イベントログの両方を、発生時刻の新しいものから順に参照します。

発生した全てのイベントログを参照する方法と、イベントログNoを指定して参照する方法があります。イベントログ内容については、**4-2. 内部イベントログ参照**と**4-3. 警報イベントログ参照**をご参照ください。

参照できるイベントログの最大件数は、内部イベントログと警報イベントログで合計300件までです。イベントログの件数が300件を超えた場合、最も古いものから上書きされます。

(例)発生した全てのイベントログを参照する場合

>evd □ 0

001:2010/01/03 03:03:30 08 PowerOFF

002:2010/01/02 02:02:20 08 Ready

⋮
⋮

300:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link(Up 100/D)

>『evd □ 0』を入力します。

>イベントログ1件目が表示されます。

>イベントログ2件目が表示されます。

>最後のイベントログが表示されます。

(例)イベントログNoを指定して参照する場合

>evd □ 10

010:2010/01/03 03:03:30 08 IP Address Initial

011:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link(Up 100/D)

⋮
⋮

300:2010/01/01 01:01:10 08 Reset Start (Power)

>

>『evd □ イベントログNo』を入力します。

>指定したイベントログNoのイベントログが表示されます。

>指定したイベントログNo以降のイベントログが表示されます。

>最後のイベントログが表示されます。

(例)表示するイベントログが20件より多い場合

>evd □ 0

⋮
⋮

020:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link(Up 100/D)

continue?:

>イベントログを参照します。

>イベントログ20件目が表示されます。

>20件ごとに表示を一時中断します。

残りのイベントログの表示を続ける場合は を入力してください。

イベントログの表示を中止する場合は 以外のキーを入力してください。

4-5 全イベントログクリア

内部イベントログと警報イベントログのクリアを指示します。

>evd □ C

『evd □ C』を入力します。

クリア?(y/n):y

クリアOK

y を入力するとクリアします。

クリア?(y/n):n

クリアcancel

>

n を入力するとクリアしません。

4-6 LAN送信/受信/エラー情報の参照

LANの送信と受信とエラーの情報を参照します。

下記の情報を表示します。

送信最大パケット数	: 電源を投入した時点から現在までの間における、 1秒間の送信最大パケット数と最大時の時刻を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
受信最大パケット数	: 電源を投入した時点から現在までの間における、 1秒間の受信最大パケット数と最大時の時刻を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
送信パケット数	: 直前の1秒間の送信パケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
受信パケット数	: 直前の1秒間の受信パケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
送信エラー回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に発生した 送信エラー回数を表示します。 回数は0～9999999の範囲で表示します。
CRCエラー受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信した CRCエラーパケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
ショートパケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信した ショートパケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
ロングパケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信した ロングパケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
端数パケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信した 端数パケット数を表示します。 パケット数は0～9999999の範囲で表示します。
受信バッファオーバーフロー回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に発生した 受信バッファのオーバーフロー回数を表示します。 回数は0～65535の範囲で表示します。

>1st	『1st』を入力します。
SendMAX=9999999/SEC(2010/01/01 00:00:00)	送信最大パケット数
ReceiveMAX=9999999/SEC(2010/01/01 00:00:00)	受信最大パケット数
Send=9999999/SEC、Receive=9999999/SEC	送信パケット数と受信パケット数
SendErr=9999999	送信エラー回数
RecvErr(CRC)=9999999	CRCエラーの受信回数
RecvErr(Short)=9999999	ショートパケット受信回数
RecvErr(Long)=9999999	ロングパケット受信回数
RecvErr(Align)=9999999	端数パケット受信回数
RecvErr(Over)=65535	受信バッファオーバーフロー回数
>	

4-7 LAN送信/受信/エラー情報のクリア

LANの送信と受信とエラー情報のクリアを指示します。
パケット数や回数の情報を0クリアします。

```
>lst □ C
クリア?(y/n):y
クリアOK
```

『lst □ C』を入力します。
y を入力するとクリアします。

```
クリア?(y/n):n
クリアcancel
>
```

n を入力するとクリアしません。

4-8 内部時計の参照および設定

モジュールの内部時計の値を参照または設定します。

```
>rtc
rtc:10/01/01/00:00:00
```

『rtc』を入力します。
現在のモジュールの内部時計の値を表示します。

```
>rtc □ 10/03/31/12:00:00
rtc:10/03/31/12:00:01
```

『rtc □ 年/月/日/時:分:秒』を入力します。
※ 年は西暦で下2桁を設定します
内部時計を設定し、内部時計の値を表示します。

4-9 通信速度・通信方式の参照および設定

現在のモジュールの通信速度と通信方式を参照または設定します。
通信速度と通信方式と設定方法の内容は下記のようになります。

通信速度	:100Mbps = 100
	10Mbps = 10
通信方式	:全二重 = D
	半二重 = H
設定方法	:TELNETによる手動設定 = (M)
	自動(オートネゴシエーション) = (A)

```
>lan
lan:10/H(M)
```

『lan』を入力します。
現在の通信速度と通信方式の設定を表示します。

```
lan:100/D(A)
```

自動(オートネゴシエーション)が適用されている場合は、
現在のモジュールの通信速度と通信方式を表示します。

(例)通信速度を10Mbps、通信方式を半二重に設定する場合

```
>lan □ 10/H
lan:10/H(M)
```

『lan □ 通信速度/通信方式』を入力します。
設定した値を表示します。

(例)通信速度と通信方式を自動(オートネゴシエーション)に設定する場合

```
>lan □ A
lan:A
```

『lan □ A』を入力します。
設定した値を表示します。

※ 通信速度と通信方式の設定はモジュールをリセットしないと適用されません。

4-10 通信SUM値の有無の参照および設定

現在の通信SUM値の有無を参照または設定します。
通信SUM値の有無の内容は下記のようになります。

設定値 : 通信SUM値無し = d
通信SUM値有り = e

<pre>>sum sum:d</pre>	『sum』を入力します。 現在の通信SUM値の有無を表示します。
(例) 通信SUM値を有りに設定する場合	
<pre>>sum e sum:e</pre>	『sum 設定値』を入力します。 設定した値を表示します。

※通常、通信SUM値設定は行う必要はありません。

4-11 通信エラーステータス応答の有無の参照および設定

現在の通信エラーステータス応答の有無を参照および設定します。
通信エラーステータス応答の有無の内容は下記のようになります。

設定値 : 通信エラーステータスの応答無し = d
通信エラーステータスの応答有り = e

<pre>>err err:d</pre>	『err』を入力します。 現在の通信エラーステータス応答の有無を表示します。
(例) 通信エラーステータス応答を有りに設定する場合	
<pre>>err e err:e</pre>	『err 設定値』を入力します。 設定した値を参照します。

※通常、通信エラーステータスの設定は行う必要はありません。

4-12 モジュールを工場出荷時の状態に戻す

モジュールを工場出荷時の状態に戻します。
リセット後、TELNETは切断され、モジュールが再起動して工場出荷時の状態に戻ります。

<pre>>ini クリア?(y/n):y ini Go</pre>	『ini』を入力します。 y を入力すると工場出荷時の状態に戻ります。
<pre>クリア?(y/n):n クリアcancel ></pre>	n を入力すると工場出荷時の状態に戻りません。

※工場出荷時の状態については、「1 工場出荷時設定」をご参照ください。

※「ini」により工場出荷時の状態に戻した場合、内部イベントログと警報イベントログは消去されません。

※工場出荷時の状態に戻すと、リアルリンクツールで設定した各種設定が消去されますのでご注意ください。

ご注意 この取扱説明書の内容は、お断りなく変更する場合がありますのでご了承下さい。

watanabe

渡辺電機工業株式会社

<http://www.watanabe-electric.co.jp>

本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目16番19号
TEL 03-3400-6141(代) FAX 03-3409-3156

IM0463-03 2013年07月29日

